

無痛分娩を希望される方へ

妊婦さん・ご家族用の無痛分娩の手引き

この冊子は、無痛分娩を希望される方や検討中の方に対して、当院の無痛分娩に関する理解を深めていただくために作成したものです。



札幌東豊病院
産婦人科・麻酔科

2021年2月改訂版

はじめに

当院は、安全・快適で質の高い無痛分娩の提供を目指しております。

平日9時から17時までの対応を基本としております。条件付きで、土曜日（午前）も対応する場合があります。

夜間や日曜・祝日における無痛分娩は、十分な対応ができる体制が整っていないため、現在は行っておりません。ご理解のほどよろしくお願いします。

予定された入院日の前に陣痛や破水で入院となった場合でも、平日の前記時間帯かつ麻酔対応可能な状態であれば、極力対応させていただきます。

- ・ 欧米では無痛分娩が一般的に行われていますが、日本においては十分に普及しているとは言えない状況です（北海道においては、妊婦さん希望の無痛分娩は発展途上の段階です）。
- ・ 当院では、無痛分娩に精通した麻酔科専門医と産婦人科専門医および助産師が、質と安全を意識した無痛分娩を提供しております。
- ・ このパンフレットは無痛分娩に対する理解を深め、安心して分娩に臨んでいただくために作成しております。無痛分娩の流れ、麻酔方法、メリットやデメリット等よくご理解いただいたうえで無痛分娩をご検討ください。

無痛分娩のメリット

■ 陣痛・お産の痛みが軽くなる

- ・ 無感覚分娩ではありませんので、多少の痛みはあります。また張る感じ・いきむ感覚・赤ちゃんが生まれてくる感覚もあります。

■ 産後の回復が早い

- ・ 陣痛による体力や気力の消耗を回避できます。産後ゆっくりとした環境で過ごせない方や体力に自信がない方でも安心できます。

無痛分娩の流れ

産科受診

- 無痛分娩希望や無痛分娩に興味がある場合（まだ決めていないけれど、途中から希望するかも…等）は、産科医や外来スタッフ（助産師・看護師）に伝えてください。



麻酔科面談

- 健診日などに合わせて、面談をお願いしています（火・木・土）。
- 無痛分娩の麻酔方法や合併症、流れや費用など麻酔科医が詳細に説明します（30分～50分）。
- 採血検査や病歴などから無痛分娩が可能か判断します。
- 無痛分娩の同意書をお渡しします。



入院/麻酔開始

- 入院後、誘発剤（促進剤）が投与され、痛みが出てきて、妊婦さんの除痛希望があった時に麻酔対応の検討をします。
- 麻酔に必要な管は、除痛希望前に予め入れておく場合もあります（特に経産婦さん）。
- 麻酔（管の挿入など）は産科病棟のLDR室（陣痛・分娩・回復を一貫して過ごす部屋）で行います。

麻酔の方法

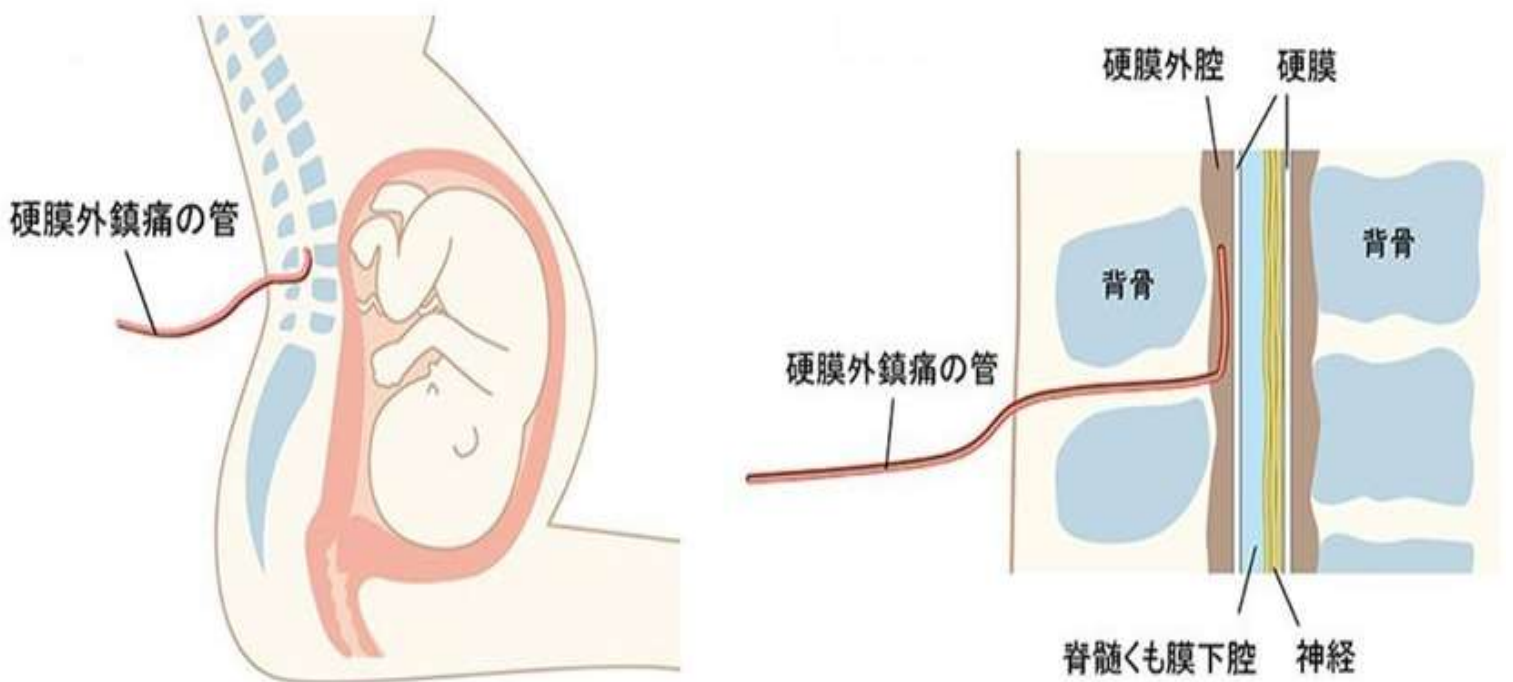


図 : 日本産科麻酔学会ホームページより引用

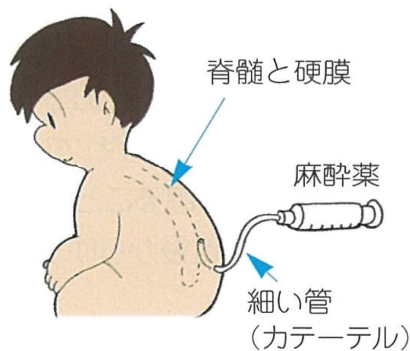
体の各部分から集まった神経は、脊髄という太い神経に集まり、脳へと続きます。脊髄は袋（硬膜）の中にあり、硬膜の外側には、硬膜外腔というスポンジ状の部分があります。

硬膜外麻酔は、背中から専用の針を使って、スポンジ状の部分（硬膜外腔）に直径 1 mm の細い管（カテーテル）を挿入します。この管から局所麻酔薬を投与し、脊髄の直前で痛みの伝達を防ぎ、痛みを感じにくくします。

硬膜外麻酔

無痛分娩だからといって特別な麻酔ではありません。通常の手術麻酔（帝王切開の麻酔など）や術後鎮痛にも用いられる方法です。

①



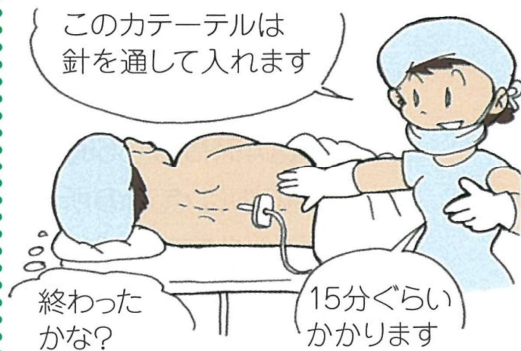
②



③



④



⑤



⑥



LDR室での麻酔

(硬膜外カテーテル挿入)



- 当院では、基本的には**硬膜外麻酔**単独での方法で麻酔管理しています。分娩進行や痛みの強さなどから、状況によっては**脊髄くも膜下麻酔（脊椎麻酔）**を併用する場合があります。
- 原則39週の計画（誘発）分娩が基本ですが、平日の日中であれば、自然陣痛発来で入院となった場合においても対応しております。

痛みのコントロール



【携帯型PCA付き注入ポンプ】

PCA: 自己調節鎮痛法

➡持続で麻酔薬が流れている状況でも痛みが強い場合にPCAボタンをご自身で押してもらうと、一定の麻酔薬が流れ、約10～15分後に痛みが軽減します。

- ・最初に硬膜外カテーテルから麻酔薬を入れて、効果が出てくるまでは約15～20分ぐらいかかります。
- ・麻酔の効果を確認したあとは、上記のような注入ポンプで**持続的に局所麻酔薬を投与して除痛**していきます。
- ・それでも痛みが強い場合などは、医師が硬膜外カテーテルより麻酔薬を追加して除痛対応します。

麻酔の影響

★お母さんへの影響

【麻酔手技によるもの】

- ・分娩後に**頭痛**を起こす可能性が1%程度あります。針やチューブ挿入の際に硬膜が傷つくことが原因です。座位になると増強しますが、ほとんどの場合は1週間以内で治ります。
- ・腰痛や下肢の神経損傷は、分娩後まれにみられる合併症ですが、無痛分娩の処置の際に神経が傷つき起こる可能性もあります。可逆性のことがほとんどですが、治療に時間を要する場合があります。
- ・非常にまれに硬膜外腔に血腫や膿瘍ができて神経を圧迫し、感覚・運動神経麻痺を起こす可能性があります。

【麻酔薬投与によるもの】

- ・硬膜外麻酔の鎮痛が長くなると、お母さんが**発熱**することがあります。
- ・麻酔薬の影響で、体の一部の**痒み**が出たり、**嘔気**を感じる場合があります。
- ・麻酔が効きすぎると、いきむタイミングがわからなくなることがあります。その場合は、麻酔薬を調整したり、助産師がモニターをみながら適切にアドバイスします。

★赤ちゃんへの影響

- ・ 硬膜外麻酔や脊髄くも膜下麻酔における局所麻酔薬が胎盤を通過して赤ちゃんに与える影響はほとんどないと考えられています。
- ・ お母さんに血圧低下がみられた場合には赤ちゃんにも影響が及びますので、無痛分娩中は赤ちゃんとお母さんの全身状態について常にモニター管理をしており、すぐに対応できる体制を整えています。
- ・ 特に、局所麻酔薬投与直後、子宮が過剰に収縮することがあり、それにより一過性に赤ちゃんの心拍数が低下することがあります。この変化は基本的にはすぐに回復します。

★分娩への影響

- ・ 陣痛が弱くなり陣痛促進剤の使用（増量）が必要になることがあります。
- ・ 産道の出口で分娩が遷延すると、吸引や鉗子などによる器械分娩の割合が高くなります。
- ・ 自然分娩に比べれば分娩時間が長くなる傾向にありますが、帝王切開になる割合が高くなることはありません。

注意事項

食事

誤嚥性肺炎の危険を減らすために、無痛分娩中は（麻酔が開始されたら）**絶食**となります。飲水は、水、お茶、スポーツドリンクなどであれば時期に関係なく可能です。

歩行

麻酔により運動神経もブロックされるため（下肢に力が入らなくなり）転倒する危険があります。麻酔開始後は**ベッド上での安静**となります。

排尿

麻酔中はベッド上の安静となるためトイレに行くことはできません。また、麻酔の影響で排尿困難になることもあり、必要に応じて助産師が**導尿**を行います。

無痛分娩の費用

無痛分娩の費用は、通常分娩費用に加えて、保険適応外の費用が以下の通り必要となります。

- A) 日中麻酔対応あり、夕方までの出産：**8万円**
- B) 日中麻酔対応あり、2日目以降の出産、時間外の麻酔対応下での出産：**10万円**
- C) 日中麻酔対応あり、夕方～夜間に麻酔対応なしで出産：**4万円**（2日目以降も含む）
- D) 硬膜外カテーテル留置のみで麻酔薬投与なし、時間外に出産：**1万円**

- * 初産婦、経産婦ともに共通です。
- * 誘発薬（促進剤）の使用のみでは、無痛分娩としての費用はいただいております。
- * 時間外（平日17:30～・土曜12:30～）の麻酔対応ありでの出産は**10万円**となります。
- * 無痛分娩から帝王切開へ移行した場合や麻酔対応後すぐに出産となった場合においても、上記の費用はいただいております。

おわりに

我々は、最大限の努力をして皆様の安全の確保に努めております。無痛分娩に関して疑問点がありましたら、いつでもご相談ください。

【参 照】

日本産科麻酔学会 ホームページ

<http://www.jsoap.com/>

一般の方へ 詳しくみる

無痛分娩 Q&A

無痛分娩関係学会・団体連絡協議会

(JALA) ホームページ内

一般の方はこちら

<https://www.jalasite.org/>